

9月例会報告

【日時・会場】2001年9月27日(木) 19:00～筑波大学附属高校会議室→～2:00 カリンカ→～4:30 ジョナサン

【参加者(会員)】五香純典(筑波大学大学院) 清水諭(筑波大学体育科学系) 杉山裕之(青梅フットボールクラブ) 坪田正信(早稲田大学人間科学部スポーツ科4年) 中塚義実(筑波大学附属高校) 松岡耕自(立命館大学国際関係研究科/体育会サッカー部) 松下徹(大原簿記学校講師) 宮崎雄司((有)オフィスアステカ代表/サッカーマニア編集長)

【参加者(未会員)】浅野智嗣(JSA 理事長) 麻生征宏(筑波大学附属高校非常勤講師) 岡野玄(1965年浦和生まれ/(株)毎日コムネット) 小出正三(SocioFiesta「Project2002」) 片岡麻衣子(LOVE JAPAN 代表) 中西敦(LOVE JAPAN メンバー/一橋大学早川ゼミ所属) 松本佳世子(NPO 法人日本サポーター協会正会員)

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

2002年に何ができるか

ソシオ・フリエスタ「Project2002」 小出正三

日本サポーター協会理事長 浅野智嗣

LOVE JAPAN 代表 片岡麻衣子

「ワールドカップ・プロジェクト1」は、シンポジウムの開催と報告書の作成・発行で一段落。10月初旬に無事完了し、「では次にどうするか」が次のテーマである。9月の例会は、「プロジェクト1」の活動を通してつながった関連団体の方々にお越しいただき、各団体が2002年に何をしようとしているのかを手がかりに、「2002年に何ができるか」を出し合う場となった。

通常、サロン2002月例会は、会員が持ち回りで話題提供者となることを原則としている。今回のレポーターである小出さん、浅野さん、片岡さんは、いずれも"未"会員であるが"志"は同じであり、プロジェクト1でのつながりもあるので、快くお引き受けいただいた。また、9月16日に行われたソシオ勉強会を踏まえての月例会という位置づけも異例であるが、今後ともいろんな形で関係を持ちながら進めていきたいと考える。

本報告は、当日の発表内容とディスカッションをまとめ、参加者の確認を経て公開するものである。

<目次>

1. ソシオ・フリエスタ勉強会報告 ソシオ・フリエスタ「Project2002」 小出正三

2. 日本サポーター協会（J S A）の試み 日本サポーター協会理事長 浅野智嗣
3. LOVE JAPAN（L J）の試み LOVE JAPAN 代表 片岡麻衣子
4. ディスカッション
5. 感想・意見（中塚義実）

1. ソシオ・フリエスタ勉強会報告

ソシオ・フリエスタ「Project2002」 小出正三

（1）「Project2002」とは

J 2 の横浜 FC を支える任意団体のソシオ・フリエスタでは、2000 年より小出氏が中心になって勉強会を開催している。「サッカーをフィールドの外でもエンターテイメントとして楽しもう」という目的ではじまった勉強会では、「ゲームの見方」などについて講師を招いて勉強していたが、参加者に「何を採り上げて欲しいか」と問いかけたところ、圧倒的多数が「2002 年のワールドカップに向けて何らかのアクションを起こしたい」という意見を持っていた。「Project2002」は、その声を基に改めて立ち上がった。

「Project2002」はソシオ・フリエスタから生まれたが、そこにこだわるわけではなく、むしろ「2002 年に」「横浜で」をキーワードとする間の集まりと考えていただきたい。「ワールドカップを楽しもう」「小さな事、出来る事から」「小さな輪を大きく広げよう」とのココロザシに基づき、当面は、以下の 3 つの活動を行っていく。

- 1) 「勉強会」イベントの開催（サッカー関係者を招いた交流会）
- 2) 「遊び仲間」の募集（Project2002 メーリングリストを通じた交流）
- 3) 「作戦会議」の実施（2002 年に向けての企画を考える交流会）

（2）第 1 回・ワールドカップ勉強会報告

去る 9 月 16 日、横浜にて第 1 回目の「ワールドカップ勉強会」を行い、ゲストに、日本サポーター協会の野上理事と、LOVEJAPAN の片岡代表を招き、各団体が 2002 年にやろうとしていることを手がかりに、では横浜で何ができるかのかを考えた。

そこで学んだことを、コンセプト、ストラテジー、タクティクスに分けて述べてみたい。

■コンセプト

前提として重要なのは、行政主体でなく「ポジティブ」な「祭」の「主体的参加者」としての盛り上げが必要であるということである。そして、日本人も外国人もともに楽しむ、「街が楽しむ」ワールドカップを目標としたい。「ちいさな団体が主体的に活動することが大事！」であり、「足で歩いた情報を、いかに確実に伝えるか？」、そして「日本人に向けての情報発信も重要な活動！」である。

■ ストラテジー

戦略的には、情報交流の3つの方向性を考える必要があるだろう。

1) 横方向へのつながり = 各団体間のつながり

2002年へ向けて活動を行っている団体は数多くある。しかし、相互の連携についてはまだまだ不十分。各種団体の横のつながりを確保する「ポータル」が必要ではないだろうか。

2) 川上方向への繋がり = 協力者の掘り起こし

街全体が盛り上がるには、商店街や一般の人へのリアル・肌感覚の情報提供が必要。そのために一般向けの情報提供や巻き込み活動を強化する必要があるのではないか。1)で挙げた「ポータル」は、一つのプラットフォームになるだろう。

観光ボランティアなどすでに活動をしている団体の協力が、提供ソフトをより充実させる。カルチャーセンターなど、地域の教室事業も大きな可能性を秘めているのでは？

3) 川下方向への繋がり = 情報提供の整備

いくら活動が多彩でも、それが来訪者に伝わらなくてはだめ。情報の出口はきわめて重要。

空港・ターミナルなど規制がかかる戦略的なポイントをどう押さえるか、観光地・ホテル等のサテライトなポイントをどう押さえるか、そして、飲食店・コンビニなどの局地的なポイントをどう押さえるか。現状で必要なのは「ポイント」と「協力者」のリストアップか。特に、来訪者のハブとなる可能性が高い東京、横浜をどうするかは重要な課題。

■ タクティクスー当日出た話の中から

- ・コミュニケーションは、大上段に構える必要はない。「選手の名前」なども重要なコミュニケーションの入り口になる
- ・必ずしも「対戦国」だけがゲストではない。いろんな国の人に来るし、日本人もある意味ではゲスト。そういう視点も大事。
- ・「安ホテル」は大変重要な活動拠点
- ・海外のパブのようなフランクな雰囲気ができたら最高
- ・日本人でも電車を間違える人はけっこういる。広い範囲を考えて対策を練る必要がある。

(3) まとめ

「2002年に何ができるか」に関しては、「自分たちが具体的な活動をする」関わり方と、活動をしている団体の「ポータルとなる」関わり方があり、両方重要。

なお、Project2002では、10月28日には湯浅健二氏を、11月11日には安田良平氏、FUMIKI氏を招き横浜で勉強会の開催を予定している。詳しくは <http://www.brandlogistics.co.jp/2002/> をご覧頂きたい。

2. 日本サポーター協会（J S A）の試み

日本サポーター協会理事長 浅野智嗣

J S Aとしては、とにかく「ファンヴィレッジ（F V）」をやりたいと考えている。それは、チケットを持たないファンが集まって大型ビジョンでゲームを観戦し、フットサルができるスペースがある祭空間というイメージである。

J S Aが自前の公園や大型ビジョンを持つわけではないので、これらは借りるしかない。そこで、行政と合体してこれを実現させる必要がある。つまり、行政に対してソフトを提供し、リスクマネジメントは行政とスポンサーに、という考えである。

ただ、市井の市民団体の提案を行政がすんなり受託するわけではない。そのために、J S Aとして行政に対し、きちんとしたアドバンテージを持つ必要がある。それが「サポーターWEB」である。これは、国内外のファンのために、ワールドカップ開催年の情報を提供することを目的に作られたもので、「ベニュー」「スタジアム」「スタジアム周辺」の情報を網羅している。そして、これらの情報提供を「市民」が草の根レベルで行うということがポイントである。

「スタジアムカンファレンス（スタカン）」は、スタジアムそのものを調べた情報である。トイレの位置と数、フードサービスなどに加え、スタンドの座席からピッチがどのように見えるかについての写真も掲載されている。「スタジアム周辺情報」は、スタジアム周辺を調べたもので、海外の人が見てもわかるように、いくつかの言語を選択できるようになっている。

そして、できたものをJAWOC、開催自治体にぶつけてみて、その代わりにブースを作らせてくれればということを考えている。ファンヴィレッジをつくるための戦略でもある。

ファンヴィレッジ的なものを行政が、あるいはスポンサーが主導でやると、一過性のものに終わってしまう。これを市民が主体的に行うことで、その先につながる。ファンヴィレッジはJ S Aの活動の中核だが、10都市の横のつながりができると、その後の情報流通が可能となり、市民の側からの地域スポーツの活性化、「スポーツ文化の醸成」につながるだろう。最終的にはこういったことを目指したい。私自身もプレーしたい。「いつでも芝生でサッカーを」、「ボク"がやりたい！というのが動機である。

ファンヴィレッジの進行状況は、行政との間ではほとんど話ができている。ファンヴィレッジ的なものに入場料を徴収することに関しては、行政自身も嫌がっている。ほぼできるという見通しは持っている。

詳細については以下のURLを参照されたい

http://www.jsa-npo.or.jp/supoweb_new/index.html（暫定版サポーターwebHP）

3. LOVE JAPAN (L J) の試み

LOVE JAPAN 代表 片岡麻衣子

LOVE JAPAN 参加者は、サッカー好き、ワールドカップに関わりたい、国際交流に携わりたいと動機は様々。約 30 名の学生がメンバーとなって活動している。「SANPO ツアー」を通してワールドカップに関わろうと考えている。

ワールドカップの成功にはいくつかあると思うが、開催国としては「日本でやってよかったなあ」となってほしい。日本の良さを知ってもらうために、散歩を外国人と一緒にするというのが「SANPO ツアー」である。概要は以下のとおり。

- ・内容…シンプルでラフ。なるべく歩く。お金をかけない。心に残るもの日本や日本の人々に触れられるもの
- ・対象…海外のサポーター
- ・開催場所…東京・横浜・さいたま市、新潟、大阪で企画
- ・とき…試合のない日。可能ならその前後
- ・形式…人数は 10 人前後。3、4 人のスタッフがつく。時間は 3～4 時間程度。駅などに集合して、歩き、または電車で移動。
- ・現在企画中のツアー…商店街で遊ぼうツアー（浴衣、柔道着などを着用）。銭湯ツアー、鎌倉観光ツアー
- ・その他…寺めぐり、大学見学、持ち寄りパーティ、縁日、花火をしよう、富士山を見よう、回転寿司食べよう、和風小物買い物、相撲をしよう、市場見学、手作り体験など

現在、以下の活動を行っている

- ・支部づくり
- ・外国人対象のアンケート調査
- ・リハーサルツアー…10 月 27 日に鎌倉で予定。留学生対象で、散歩→フットサル→銭湯といったツアー
- ・ワールドカップ勉強会…自分たちがワールドカップを知るために講師を招いて勉強会。

第 1 回は 10 月 21 日に中塚氏を招いて行う（11 月に予定変更）

中身については少しずつつめていくが、「怪しい団体」と思われていては、募集をかけても来てくれな
いだろう。「信頼の置ける団体」とみなしてもらうにはどうすればいいのかを考えている。

4. ディスカッション

●L J の活動と観光協会

- ・京都の観光協会では、外国人向けのボランティアを毎年募集している。おそらくどの地域でも観光協会

がワールドカップへ向けて何か考えているに違いない。それらとリンクできるといいのではないか。

・京都は旅館などの観光組合が強い。鎌倉は市の中に観光協会があるが、それよりもNPOがシルバーボランティアを募集して案内するような仕組みがある。浅草では仲見世商店街が強いだろう。このように、場所によって力を持っているところは異なる。東京近郊なら浅草、鎌倉、秋葉原など、SANPOの対象とする場所を早めに絞り込んで、力を持つところと交渉することがまず必要。その結果、例えば建長寺、あるいは鎌倉市という名前を使うことができれば、LJの活動も展開しやすくなるだろう。東京・横浜などで早めに交渉を開始して、その交渉過程も含めてパッケージ化して他の地域に流してあげればいいのではないか。

・「ワールドカップ観戦ツアー」はあるのかどうか。観光業の取り扱い会社であるパイロン社が日本の代理店とどういう話になっているのかわからないので何とも言えない。商業ベースとして、例えば富士山と浅草へ行こうというようなツアーができるのかどうか、わからない。

・SANPOツアーでは、ゲリラ的に日本へやってくる人を対象に考えればいいのではないか。
・ワールドカップの場合、どんな人がどんなチケットで何日間いるのかが、実際にならないとわからない。旅行業の立場に立つと、今の段階で企画書をたてにくいだろう。

●大学生の動きとその利用

・大学にはいろんなサークルがあって、民族音楽研究会など、声をかけると乗ってくる学生団体が山ほどある。こうした団体はガイドとして期待できるだけでなく、会場周辺の盛り上げ役としても期待できる。例えば、浅草サンバカーニバルに出場するような団体を、ブラジル戦の会場付近の盛り上げ役としてボランティアで貢献してもらおうなど。スポーツだけでなく、音楽が関わってくると抜群に盛り上がる。

・一橋大にはヨーロッパやアジアからの留学生が多いが、外語大やICUにはアフリカや中東からの留学生も多い。海外のコネクションも強いこれらの大学とからむことで何かできそう。

・去年から「早稲田カップフットサル大会」をはじめた。近くの公園を使って開催、246チーム来た。早稲田大学では学園祭がなくなっていたのだが、学生文化をどう発信していくのかということで、11月に大学側が主催して「早稲田エキスポ」をやることになった。その中で「早稲田カップ」を附属高校の体育館を借りて行うとともに、ワールドカップを見据えたパネルディスカッションを企画している（11月4日）。

関東の大学ではフットサル大会を学園祭でやることが多い。F-NETは専修大学の学園祭に始まって会社にまでなってしまったが、早稲田大でも学習院大のフットサルの運営の方と話をし、「高田馬場チャレンジカップ」を開こうとしている。こうした動きが、ワールドカップの盛り上がりにつながればいいと思う。

- ・早稲田大の学園祭の最後の頃は「電撃ネットワーク」を呼んだりしていた。大学からお金が出ていた。しかし、学生に「企画野郎」がいなくなった。
- ・横浜が盛り上がっていないぐらいだから高田馬場ではもっと冷めている。例えばファンヴィレッジを、大隈講堂の前でできないだろうか。地域の方と大学生が交流するのもワールドカップはいい。

●ファンヴィレッジ

- ・本家ファンヴィレッジの趣旨は、あくまでもチケットレスの人々の救済なので、スタジアムの近く（JAWOC管理エリア外）でやることを考えている。けど、どこで誰がやってもいい。「俺んちのテレビを外に持って行って皆で見ようぜ！」というのでもいい。支部とかいうのでなく、どんどん勝手にやってほしい。
- ・ファンヴィレッジでただで泊まらせることをやりたかったのだが、防犯及び警備コストの問題で断念した。24時間そこに留まることに関しては、地元の警察が嫌がった。

●来訪者にホームステイの提供は可能か

- ・大学の寮、学生宿舎が開放できればいい。可能性は大いにある
- ・フランス大会のときに、喧騒からはなれてバカンスに出かけた人たちのアパートが貸し出されていた。日本ではそういうことはできないだろうか。
- ・ライオンズクラブが短期のホームステイプログラムを持っている。これと協力するのが早い
- ・韓国ではどこかの都市で、ホームステイ受け入れを希望する人は市に登録することをやっている。韓国では行政主導で事が進んでいる。

●再び大学・大学生への期待

- ・大学の持っている「施設」、「人材」、それに何より学生の持っている「時間」は有効に使わないともったいない
- ・学生もそれなりに結構忙しい。優先順位のつけ方の問題。LJの中でも、優先順位の高い人はいろいろやってくれるけど、温度差がかなりある。・本当は、一番動いてほしいし、本人たちも動きたいのは大学のサッカー部の人たち。しかし彼らはリーグ戦をやっているので動けない。・サッカー協会に登録し、きちんとサッカーをやっている人が、ワールドカップをめぐる動きにあまり絡めないことにジレンマを感じる。

●サロン 2002 として「2002 年に何ができるか」

- ・「ポータル」はサロンを意識して言ってみた。何かする人は、することがあるのだからそれをすればいい。サロン 2002 には、各方面への顔の広さを活かして「つなぎ手」みたいな活動をしてもらえるとありがたい。バックヤードの機能はこれからますます必要になってくる。
- ・一所懸命になって取り組んでいると、周りが見えなくなっていくことがある。情報の共有化、すなわち「こいつらこういうことやってるよ。それパクっていいよ」ということになれば、ありがたい。その際、全

然知らない人の情報やアイデアは怖くてパクれない。信頼関係をもとにした横のつながりは、誰かが音頭を取ってやらないとできないだろう。サロンにはそういうことを期待したい。

・L Jがサロン 2002 月例会で考えをはじめて披露したのが5月頃。数ヵ月後にはここまで大きくなっている。サロンに触れることによって育っていくような、触媒の役目を果たせればいい。

5. 感想・意見（中塚義実）

サロン 2002 は、「2002」がついているためか「ワールドカップへ向けて何かをする団体」と勘違いされることがある（あと多いのは、「サロン」とついているので「サロンフットボールのチーム」と思われることか）。

確認しておきたいが、サロン 2002 にとっての 2002 年 F I F A ワールドカップは、“志”を実現する上での「大きな節目」には違いないが、それが全てではない。「国内外の様々な人々と協力しながら、この世界的なイベントの“成功”に貢献する」ことを考え行動するが、むしろ「同大会後の“ゆたかなくらしづくり”」に重きを置いている。「サロン 2002 設立宣言」（2000 年 4 月 1 日）はこのように読んでほしいし、“成功”や“ゆたかなくらしづくり”に関する議論をもっとしたい。それができるのは、多様な人材が、所属や肩書きを抜きにして集まるサロンならではのだろうと思う。

だから、サロン 2002 の「ワールドカップ・プロジェクト」が取り組むべきは、「コンフェデ杯総括シンポジウム」のように「立場を超えて情報交換する」ことであり、その結果として「横のつながりを築く」ことではないか。「各方面への顔の広さ」を活かしたこうした活動は、サロン 2002 の使命であると感じたのが、今回の月例会であった。

個人的には、私自身の出番は「2002 年」よりも「その先」にあるように思う。そして、そのための「情報発信」や「仕掛け」や「具体的な活動」に取り組んでいるのだが、欲張りな私は「2002 年へ向けて」もさらに何かしたいと考える。

さしあたり、11 月 11 日の「KICK-TOGETHER～全国一斉サッカーフェスティバル」（開幕 200 日前を記念して、全国各地で紅白に分かれてサッカー／フットサルをし、勝敗を全国集計する企画。主催は J F A と J A W O C。詳細は <http://www.kick-together.com/>）に、部員の発案で「筑波大学附属高校サッカークラブ」としてエントリーした（会場およびメンバーとして）のは、全校生徒・教職員の関心をワールドカップに向けるチャンスである。小さなことではあるが、こうした積み重ねが「2002 年とその先」へつながると信じている。

「2002 年に何ができるか」は、サロン 2002 のあり方の問題でもある。会員制の組織になって 1 年半。2002 という年号を掲げている以上、2002 年には何かがあっていい。N P O 法人化も含めて、2002 年以降のサロンのあり方を検討する時期かもしれない。

ワールドカップ予選が終盤に差し掛かってきた。出場国が決まるたびに、2002年のイメージが膨らんでくる。おそらく12月1日にはより鮮明なものとなり、その先はまっしぐらに突き進むのだろう。そして、あっという間に2002年5月31日がやってきて、6月30日もすぐに来るのだろう。するともうそこは「ワールドカップ後」である。

2002年も、2002年以降も、すぐそこまで迫っている。